

まちの「今」をお届けします

山口東京理科大学から市へ 薬用植物の鉢植えを寄贈

山口東京理科大学「薬用植物愛好会」の学生たちが育てた薬用植物の鉢植えを市に寄贈することになり、7月11日、市役所玄関前で贈呈式が行われました。

同会は、昨年開催された山口ゆめ花博で薬用植物のクイズを作るなどのボランティアをした薬学部のメンバーで構成。閉幕後に県から株を譲り受け、同大学の施設内で栽培。今回寄贈したのは、カレープラント、パイナップルミント、タイム、ワレモコウの4種類です。

同会会長の豊永珠生さんは「多くの市民のみなさんに薬用植物に関心を持ってもらいたいです」と語りました。

鉢植えは、来庁者の目に留まりやすいように市役所玄関前に置いてあり、植物に関するクイズを添えています。市役所のほか、中央図書館、山陽総合事務所、市民病院にもあります。みなさん、ぜひご覧ください。



漁師体験してみよう！ 漁してみ～ネ HABU

歴史ある埴生漁港の文化や漁業に関心を持ってもらうことなどを目的に、7月15日、埴生漁港で体験学習「漁してみ～ネ HABU」が行われました。参加した小学生約100人は、カニ漁・競り・調理を体験。自分たちがとったカニを鍋で茹でると、真っ赤に変身した姿にびっくり。漁師の仕事について知識を深めたようです。



市長から理科大学生へ人生のアドバイス スマイルランチトーク

協創によるまちづくりの推進を目的に、7月22日に山口東京理科大学の学生5人と市長が意見交換を行う「スマイルランチトーク」を同大学で開催。市への要望や部活の話など、食事をしながら歓談しました。藤田市長は自身の経験をもとに「失敗も良い経験。色々なことに挑戦して欲しい」と学生にメッセージを贈りました。